

デンマークの子育て

お話：澤渡 夏代 ブラント

報告者：浦野 真沙子

私が、長いことデンマークで生活していて「デンマークってどんな国？」っていわれると「私らしく生活できる国」と答えると思います

夏代さんのこんな素敵な一言から始まりました。

★結婚・出産＝退職でない！

デンマークは女性の社会参加と、それを支える社会のしくみが非常に整っています。たとえば、フレックスの有給・育児休暇が 52 週 約 1 年間あります。なぜフレックスかというと、子どもの成長に合わせてとりたいたときに自分でとるからフレックス休暇になります。デンマークでは休暇を自分で調節する

ことが可能です。また出産後 2 週間は男性も休暇をとりますが、これは義務だそうです。そして最後の 32 週は男性か女性のどちらかが休暇をとることが決められるのです。出産すると病院から訪問看護師に連絡がいき、新生児の場合年間 5～7 回訪問を受けます。ですから、新米のお母さんは赤ちゃんがおっぱいを飲まない・おむつを何回替えたらいいいのかなどの心配事に訪問看護師がみんな答えてくれるそうで、安心して子どもを産めます。

また、この看護師がマザーズスクール部を結成してくれるので、同じ頃に出産した近所の人達をグループにしてミーティングをします。中には子どもたちが成長して学校に行ってから続くマザーズスクールもいっぱいあ



るそうで、お母さん同士が子どものことを話し合える場があり、お母さんにとってはすごい力になるのです。

★子ども時代は子どもらしく 経験から学びましょう



保育では、いろいろな経験をさせてそこから学ぶことを大切にしています。

ですから、「教育は学ぶことを学ぶ」つまり、与えられたテーマについて答えを覚える勉強ではなくテーマについて生徒はいろんなツールを使って学びます。

たとえば、テーマに沿う人を見つけインタビューする・インターネットで調べるなど、学び方を先生が指導します。そしてどう学ぶかは生徒が決めます。

というように、多くの経験や選択肢の中から自己決定を通して豊かな人生を歩んでいくのです。

★みんな違ってみんないい！

みんな競争なの自分との人との競争でなくて自分との競争で木に登った子どもの写真を見て夏代さんは言いました。

この子たちは人が上まで行けるから行きたいではなく、昨日より一歩上の枝に登れたらそれで満足なんです。今日はこれでいいと、一人ひとりの違いを大切にします。



デンマークの子どもたちは、「したい！」と思えば3歳でもナイフの使い方を学べます。「危ないからダメ」ではなく、どう使うのかを覚えます。

そして、次の約束をします。

- ・誰も周りにいないこと
 - ・ほかのことをしないで集中して使うこと
- 保育者は終わるまでそっと見守ります。このように子どもたちは見守られながら、豊かな人生を目指して自分で決めていくのです。

将来のデンマークを背負う子どもに、国家繁栄の鍵としてデンマーク社会が求めている人間像があります。それは<自己判断・自己決定のできる自立した人間>です。

職業教育もとても充実しています。一般教育には返還する必要のない学生奨学金が出て、職業教育にはお給料が出ます。

デンマーク人は<子どもは神様の贈り物 年寄りも芸術の賜物>、愛すればその子は愛する大人になる。国に愛され社会に大事にされてると思うと。国を愛し国家繁栄の担い手となるのではないかと考えているそうです。

デンマークの子どもは、両親が働いていても社会に守られています。